

# 事業事前評価表

国際協力機構経済基盤部平和構築・都市・地域開発第二課

## 1. 案件名

国名：ボスニア・ヘルツェゴビナ国

案件名：地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト

The Project for Confidence-Building through Rural Development

## 2. 事業の背景と必要性

### (1) 当該国における平和の定着現状と課題

ボスニア・ヘルツェゴビナ国（以下、「BiH」と記す）は、包括的和平合意後約18年が経過したが、地域社会には未だ異なる民族間の感情的な対立が残っており、ふたつのエンティティ<sup>1</sup>間の協力関係は構築されておらず国としての一体的な開発推進はできていない。紛争中に流出した200万人以上の難民・国内避難民の帰還問題についても、異なる民族のエンティティに帰還した住民が十分な行政サービスを受けられていない等の現状があり、未だ紛争による不安定要因は継続している。

JICAはBiH政府の要請により、2006年3月から、長期専門家の派遣及びその成果を受けた「スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト」（2008年9月～2013年11月；当初計画より約2年延長）を実施した。同プロジェクトは、農業・農村開発による民族和解を目的とし、ハーブ生産・加工、野菜栽培、養蜂、牧草生産、児童保育施設運営などの事業を展開し、コミュニティ社会の再構築と住民の経済的自立のための協力を実施してきた。結果としてスレブレニツァ市全域がカバーされ、20種の活動を通じ、裨益人口は総計5,347人（セルビア人2,846人、ムスリム2,501人）に上り、対象住民のサンプル調査結果によると、裨益住民の収入の向上（2011年から2013年までに30-40%増）、これら経済活動の定着も確認されている。同時に、市役所による民族の垣根を越えた情報の伝達などの取り組みを通じ、多民族社会の安定化に求められる情報公開・交換による透明性が高まり、民族共存を後押ししている効果が確認されている。

これらの効果を高く評価したスルプスカ共和国（以下、「RS」と記す）農林業・水管理省側の発意により、スレブレニツァ地域での事業の成果を周辺地域に展開することが求められていると同時に、より先方政府側の関与を強め、成果の持続性を図る観点から、市役所が民族に関わらず公平にサービスを提供できるようになり、住民融和が促進されることが課題として残されている。

### (2) 当該国における地方開発政策と本事業の位置づけ

BiHは中期開発戦略（2010-2014年）のなかで、多民族共存社会の再構築、および農業生産力の向上による経済水準の向上を優先課題に掲げ、EU加盟に向けた諸改革に取り組んでいる。なかでも国土の88.9%が農村地域であり、人口の70.4%が農村地域で生活していることに鑑み、国家開発を実現する上で農村開発は重要課題のひとつであるとしている。

RS農林業・水管理省は「農村開発戦略プログラム（2010-2015年）」のなかで、農村地域の生計向上と多様な所得創出手段の導入を重点課題のひとつとして掲げており、農村地

<sup>1</sup> 包括的和平合意による取決め（ Dayton合意、1995年署名）により、ムスリム系及びクロアチア系住民が中心の「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」とセルビア系住民が中心の「スルプスカ共和国」という2つのエンティティ（高度な自治権能を持つ行政主体）から構成される国家となった。

域における開発のニーズを踏まえた、農業生産活動に係る体制強化と持続可能な開発、企業の競争性の向上を図る環境づくり、公共財へのアクセスの向上を通じた生計向上等が戦略アプローチとして示されている。本事業は対象地域において包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制が強化されることを目指すものであり、プロジェクトの効果が着実に定着し、住民の融和が促進されていくことが期待されている。

### (3) 平和の定着に対する我が国及び JICA の援助方針と実績

民族融和の促進を目的とする本事業は、「平成 24 年度対ボスニア・ヘルツェゴビナ国別援助方針」の重点分野および開発課題である「平和の定着・民族の和解」のなかで、「平和の定着・民族の和解プログラム」に位置付けられる。複数の民族を対象にした本事業の実施により、まずは地域レベルでの民族の和解を図り、最終的には両エンティティでの共通政策策定などを目標に設定し、国レベルでの民族の和解を目指すとしている。

JICA は「スレブレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援（人間の安全保障プロジェクト）」（2006 年 3 月～2008 年 3 月）、「スレブレニツァ地域における信頼醸成のため農業・農村開発プロジェクト」（2008 年 9 月～2013 年 11 月）を通じ、スレブレニツァ市役所、住民、現地 NGO 等の関連組織が連携して事業を行うことで、これら関係機関の能力の強化と両民族協働の活動の推進を図った。対象住民のサンプル調査結果によると、ハーブ生産・加工、野菜栽培、養蜂、牧草生産、児童保育施設運営等の事業への参加を通じ、年収増加といったインパクトも確認されている。

### (4) 他の援助機関の対応

国連開発計画（UNDP）は過去 12 年間、ロガティツァ市を除く本事業の対象市において、民間セクター開発支援、市の組織強化、インフラ整備に重点を置いた開発支援を実施してきていることから、地域別あるいは対象品目別に役割分担を行うなど、効果的な連携を図ることで、相乗効果として対象市の包括的な地域振興が期待される。

## 3. 事業概要

### (1) 事業目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

本事業は、スレブレニツァ市、ロガティツァ市、プラトナツ市において、現場のニーズを踏まえた生計向上に係る農業・農村開発事業を実施し、市役所の農業・農村開発支援能力機能を強化し、これらの市役所機能強化および生計向上の取り組みを、RS 農業省に対し情報共有を行うことにより、対象地域において、包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制の強化を図り、もって包摂的で公平な農業・農村開発事業の実施体制が強化され、住民の融和が促進の促進に寄与するものである。

### (2) プロジェクトサイト／対象地域名

スレブレニツァ市（527 km<sup>2</sup>、約 15,242 人）、プラトナツ市（293 km<sup>2</sup>、約 21,619 人）、ロガティツァ市（665 km<sup>2</sup>、約 11,603 人）の 3 市を対象とする。

### (3) 本事業の受益者（ターゲットグループ）

市役所関連部署行政官（市レベル）、対象地域の帰還民、母子家庭、戦争傷病者のいる家族を主とする対象地域の住民、貧困農民層、小農家

### (4) 事業スケジュール（協力期間）

2014 年 1 月～2017 年 3 月を予定（計 38 カ月）

(5) 総事業費（日本側）  
約3.8億円（予定）

(6) 相手国側実施機関  
実施責任者：スルプスカ共和国 農林業・水管理省  
運営管理：スレブレニツァ市役所、ロガティツァ市役所、プラトナツ市役所（経済開発部等）

(7) 投入（インプット）

- 1) 日本側
  - ①長期専門家派遣：チーフアドバイザー/地域開発・平和構築（36M/M）、業務調整/農村開発（36M/M）  
短期専門家派遣：IT、マーケティング、幼稚園教育、等
  - ③本邦研修：合計30名程度（平和構築、地方開発分野）
  - ④機材供与：農業・農村開発活動用機材、研修用機材等
- 2) ボスニア・ヘルツェゴビナ国側
  - ①カウンターパート配置：約12名
    - ・ プロジェクト・ダイレクター（RS 農林業・水管理省次官補）
    - ・ プロジェクト・マネージャー（スレブレニツァ市長、ロガティツァ市長、プラトナツ市長）
    - ・ プロジェクト・コーディネーター（対象3市役所経済開発部長）
    - ・ ワーキンググループ（対象3市役所開発ユニット/経済開発局長等）
  - ②施設・資機材：プロジェクトオフィス（対象3市役所内、スレブレニツァ市スケラニ支所内）、研修用会場、設備・機材、交換用部品、プロジェクト実施に必要な項目で、日本側から供与される以外のもの。
  - ⑤ローカルコスト負担：カウンターパートの活動に係る出張旅費、交通手段、プロジェクト事務所の光熱費、プロジェクト実施のための必要経費、供与機材にかかる国内運搬費、設置、運用、維持管理費

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

- 1) 環境に対する影響/用地取得・住民移転
  - ①カテゴリ分類：C
  - ②カテゴリ分類の根拠：本事業による環境への影響などはない。
- 2) ジェンダー平等推進・平和構築・貧困削減
  - ・ 最終受益者の選定基準を民族に関係なく設定し、民族バランスへの配慮を行うことで、不公平感等の不安定要因を最小限に抑えるなど、平和構築の視点に配慮し、民族融和に資するプロジェクトフレームワークになっている。
  - ・ 対象地域住民の生計向上を通じ、年金や生活保護に頼り生活している家庭の収入源の種類を多様化させることも考慮することから、貧困削減にも配慮している。
  - ・ 母子家庭を最終受益者の対象グループに含めることで、多くの女性参加と能力強化が見込まれることから、ジェンダーの視点にも配慮している。
- 3) その他  
特になし。

#### (9) 関連する援助活動

##### 1) 我が国の援助活動

これまでスレブレニツァ地域で実施してきた先行事業で有効性が確認された活動および手法の活用を図り、信頼醸成および生計向上といった成果との同地域内外への相乗効果の発現を十分に考慮する。

##### 2) 他ドナー等の援助活動

UNDP は農業関係の活動について、羊、グリーンハウス（野菜栽培）、果樹に焦点をあてた活動を実施予定である。また、農家の組織化と生計向上（収入源の多角化）を通じた中小企業推進事業予定していることから、本事業との役割分担と連携を検討していく。

### 4. 協力の枠組み

#### (1) 協力概要

1) 上位目標：包括的で公平な地方開発体制の強化を通じ、住民の融和が促進される。

指標：対象地域住民の意識変化<sup>2</sup>。

2) プロジェクト目標：対象地域において、包括的で公平な地域開発を実施するための体制が強化される。

指標：

- ・ プロジェクト終了時まで、市役所主体による公平な選定手続きを踏まえた、農業・農村開発の活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加する。
- ・ 対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービス（農業関連支援、情報提供、その他サービス）への満足度（民族間の公平性の観点を含む）が上昇する。
- ・ プロジェクト活動により導入された事業により対象住民の収入が増加する。

#### 3) 成果

成果1：現場のニーズを踏まえた生計向上に係る農業・農村開発事業が継続的に実施される。

成果2：対象地域における市役所のコミュニティ開発支援能力機能が強化される。

成果3：市役所機能強化の取り組みがRS 農林業・水管理省へ共有されることを通じ、地方自治体レベルの農業・農村開発事業にかかる情報共有機能が強化される。

### 5. 前提条件・外部条件（リスク・コントロール）

#### (1) 前提条件

- ・ 関係機関および地域住民からの協力（労務提供、資材提供等）が得られる。
- ・ 対象地域における治安が維持される。

#### (2) 外部条件

- ・ 対象地域において自然災害（干ばつなど）が起きない。
- ・ 大規模な病虫害が発生しない。
- ・ 市役所 C/P の大幅な異動がない。
- ・ 各市役所およびRS 農業省の政策に大幅な転換がない。
- ・ ボスニア・ヘルツェゴビナ国内の農産物の価格が、プロジェクト開始時と比較して大幅に下落しない。
- ・ プロジェクト終了後も、RS 農業省から市への補助金予算が維持される。

<sup>2</sup> 信頼醸成や民族融和といった繊細な問題を含む意識変化に関する指標については、住民への聞き取り等だけでその達成度を客観的、定量的に示すには信頼性が十分でないため（政治情勢など外部要因に影響を受ける可能性があるため）、長期専門家による観察や、現場における信頼醸成に資する好事例の収集などにより定性的な方法も用いてこれを測る。

## 6. 評価結果

本事業は、ボスニア・ヘルツェゴビナ国の開発政策、開発ニーズ、日本の援助政策と十分に合致しており、また計画の適切性がみとめられることから、実施の意義は高い。

## 7. 過去の類似案件の教訓と本事業への活用

### (1) 類似案件の評価結果

「スレブレニツァ地域における帰還民を含めた住民自立支援（人間の安全保障プロジェクト）」（2006年3月～2008年3月）、「スレブレニツァ地域における信頼醸成のため農業・農村開発プロジェクト」（2008年9月～2013年11月）の教訓では、民族バランスに配慮した裨益者の選定、信頼醸成のための協働による農業活動、各コミュニティの社会状況を踏まえた活動の計画策定と実施等の結果、目に見える生計向上の成果を現場で出しつつ、コミュニティレベルの民族融和に貢献につながった。

一方、対象者選定に関し、非裨益者からの不満の声も聞かれるなど、情報の透明性にかかる課題も発生したことから、選定過程において、市役所が参加し、第三者がモニタリングし、市役所が広報を通じた適時・適切な情報普及を行うべき、との教訓が得られた。

### (2) 本事業への教訓（活用）

本事業においては市役所が主体となり、生計向上活動、農業・農村活動の対象地域、受益者の選定にあたっては民族平等を基礎とし、一定の選定基準を関係者と協議し、選定を実施すると同時に、その透明性を周知する取り組みをプロジェクト計画に反映させている。

## 8. 今後の評価計画

### (1) 今後の評価に用いる主な指標

4. (1) のとおり。なお、評価のベースとなる指標の数値を決定するため、プロジェクト開始後なるべく早期にベースライン調査を行う。

### (2) 今後の評価計画

事業開始6ヶ月以内	ベースライン調査
事業終了3年後	事後評価

